

アスクラロ沼津 ホームスタジアムのあり方調査業務委託 公募仕様書

本仕様書は、沼津市が標記委託事業の受注者を公募するに当たり、基本的事項について定めるものである。

1 背景・目的

本市をホームタウンとする J 3 アスクラロ沼津は、J 2 への昇格を目指しながらホームスタジアム要件等の問題から J 2 ライセンス取得の目途が立っていない。アスクラロ沼津の昇格により今後一層の地域社会への好影響が期待されるものの、課題のクリアには静岡県東部全体での応援が必須となっている。

そのような中、平成 29 年度に静岡県東部地域の関係団体により発足した静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会において静岡県東部地域の身の丈に合った新スタジアムの構想検討が進められているが、今後の進展を図るためには、建設スキームや建設コスト及び経営スキーム等のさらなる研究が必要という議論となっている。

このような経緯から、本市ではホームタウン支援の一環として、将来のスタジアム像や実現に至るスキーム、スタジアム経営を含んだスタジアムのあり方について調査を行うものである。

また、同連絡会においては静岡県東部地域の官民を問わないアスクラロ沼津の支援機運の醸成が不可欠であると認識されているものの、アスクラロ沼津が直面しているスタジアム問題のわかりにくさもあり、静岡県東部地域の企業や団体、住民に何がハードルとなっているのか等が理解されておらず機運醸成につながっていない現状がある。このような状況を打破していくため、本業務委託においてはその足掛かりとなる情報の整理や助言等も併せて実施する。

2 調査項目

(1) アスクラロ沼津の J 1 対応新ホームスタジアム実現に向けたスキーム調査

以下の 2 項目について文献及びヒアリング※により調査し、考察を加える。

① スタジアム建設スキーム

- ・地域社会及び関係団体の参画を得たスタジアム建設に向けたスキーム・モデルについて先進事例を踏まえ調査する。
- ・J 1 施設基準に対応しながらも本地域の身の丈に合ったスタジアムについてモデルを設定した上で、建設費等調査を行う。

②スタジアム経営スキーム

スタジアム経営について先進事例をもとにスキーム・モデルを複数調査する。

※ヒアリング先案として以下を掲げるが、委託者受託者双方の打ち合わせにより決定する。謝礼は委託費の中で受託者が支払う。なお、ヒアリング件数は最大で5件とするが、今後のJリーグスタジアム像として「理想的なスタジアム」を掲げるJリーグ等、調査実施に必要な関係機関への確認等はこの件数に含めない。（「理想的なスタジアム」：平成30年12月12日にJリーグクラブライセンス事務局が公表したスタジアム基準改定による）

- ・吹田市立スタジアム「PanasonicstadiumSuita」
（ガンバ大阪のホームスタジアム）
- ・大阪市立長居球技場「キンチョースタジアム」
（セレッソ大阪のホームスタジアム）
- ・ありがとうサービス. 夢スタジアム（FC今治のホームスタジアム）
- ・杉本龍勇法政大学教授（多摩キャンパス・町田市）
- ・国内有識者（最大2名。委託者との協議により決定）

（2）アウェイツーリズムの参考事例整理

J2、J3所属クラブのホームタウンの参考事例を三つ調査し、アスルクラロ沼津及び静岡県東部地域に有用な要素を抽出する。なお、調査手法は文献調査、ヒアリング等を問わない。

（3）資料作成支援及び検討支援等

- ①本市及びアスルクラロ沼津が対外的な理解や支援を求めるための説明を行う際
（※）の素材となる有益情報の整理と資料化支援
（※静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会を始めとする関係機関、関係者及び広く一般に行う周知説明を想定）
- ②調査項目全般における検討支援及び助言・コンサルティング支援

3 調査項目間における業務比重目安及び着手順について

上記各調査項目間のおおまかな労務目安として「調査項目1」を5、「調査項目2」を1、「調査項目3」を4とするが、委託者との打ち合わせにより柔軟に対応する。

着手順は「調査項目1」を優先する。調査項目3は調査期間を通じて行うものである。

4 打ち合わせ

(1) 既定打ち合わせ

契約期間内に開始時・中間・最終の打ち合わせを既定のものとし、それぞれ記録を作成する。

(2) 随時打ち合わせ

ヒアリングに先立つ調査実施にあたり必要が生じた場合は打ち合わせを実施する。それぞれ簡易的な記録を作成する。

5 成果物

- (1) 沼津市業務委託完了届出書
- (2) 調査報告書及び報告書概要版（A 3・4枚程度にまとめたもの）
- (3) 打ち合わせ記録
- (4) 上記を含む電子データ